

今は行動するとき。受験において最善を尽くそう！

茗溪塾塾長 宇野雅春

2010年がスタートしました。冬期講習 正月特訓 茗溪模試も終了し、いよいよラストパートも大詰めです。直前も焦らず、やるべきことをキチンと積み上げていってほしいと思います。受験直前は、意識が最も煮詰まっている時期です。ちょっとした「気づき」が、合格への大きな一歩になることもあります。

勉強がたてこんでくると、意識が高くなる分、いろいろなことに過敏になり、考え込んでしまうことがあります。受験って何だろう？勉強して何になるんだろう？自分にはもっと大切なことがあるのではないかなどです。そんな思春期の生徒に向かうとき、私は常々言っていることがあります。

人には、考えるべき時と、行動するべき時とがあるということです。考えるべき時に考えず行動することに夢中になっていたり、行動するべき時にあれこれ迷って考えているケースが世の中にはたくさんあります。ずれてしまうということなのですが、それも必要な時があるとは思いますが、後悔することが多いものです。受験の今は、行動するときです。やれるだけのことをやりきって、結果については後で考えればよいということです。志望校選びも含めて十分に考える時期を過ごしてきたはずです。ここからはとにかく行動しましょう。

過去問、やり直し勉強、すべてが血肉になる時期です。勉強が思うように進まず悩んでいる人もいるかもしれませんが、とにかくやれることをどんどんやりましょう。

ここからのキーワードは「朝型」の生活スタイルと「To do list」です。

受験に合わせて朝型にするという意味だけではなく、最も効率のよい密度の高い勉強をするために朝型にするのです。また、将来にも活かせる生活習慣にもなると考えると、昼夜逆転するような受験勉強より、朝型の生活習慣の方が大きな価値があると思います。

そして、「To do list」。とにかく朝起きたら、その日やるべきことをどんどん書き出してみましょ。やり終わったらチェックを入れて、消しこんでいきます。それを繰り返しながら、生活習慣を整えていきましょう。ここで気をつけなければいけないことは、独りよがりの勉強にならないようにすることです。塾の授業などは、その時期最も大切なものを提供しているものですから、「自分はこっちをやりたい」などと勝手に言わずちゃんとやりきりましょ。思い込みで生徒が勝手に勉強の「かじ取り」をしてしまう場合は、弱点の改善は更に難しくなり、それこそただひたすら不合格に向けて頑張る「不合格の準備」になってしまうことがあるのです。この時期のプロの忠告は、経験を積んでいるだけに重要です。素直に聞き入れていくことが大切です。人は行動するとき、周りが見えなくなりがちです。無我夢中で受験に取り組み、取り組む時期である、という段階ですから仕方がないことなのですが、心の眼はしっかりと開いておいてほしいと思います。人の話をキチンと聞くこと。言いなりになるということではなくその人が「言いたいこと」をキチンとつかむという事です。

ここが君たちの一番星。悔いを残さないよう頑張りぬきましょう。これは永遠に続くことではなく、あと少しで終わってしまうこの時期だけの体験です。受験の今だからこそある「充実感」や「喜び」にも心を開きましょう。私たちも全力で皆さんを応援いたします。塾の講師にとってここは仕事上の一番星。WIN・WINの熱いチームワークでこの受験を勝ち抜きましょう。